

18 リドカインテープによる皮膚症状のある患者への援助 —皮膚保護剤とリドカインテープの併用を試みて—

長野赤十字病院透析室センター 黒岩慎吾 富田絵美 伝田規子 畔上信子
朝日えり子 須藤のり子 市川透 出浦正 徳永真一

〔はじめに〕

血液透析療法 (HD) において穿刺は不可欠なものである。生命維持のためHDを続けていかなければならない透析患者にとって針を刺されるといふ行為は避けては通れないHDのスタートであり、穿刺痛は透析患者にとってストレスのひとつではないかと考えた。現在当病院では穿刺痛の緩和にリドカインテープが使用されている。しかしリドカインテープの副作用である皮膚症状があり使用できない患者が多数いる。実際「皮膚症状があり使用できない。」「かぶれなければ使用したい。」「かぶれるから穿刺の痛みは我慢している。」等の声が聞かれた。そこでリドカインテープを貼る前にCAPD患者のテープかぶれに効果があった、非アルコール性皮膚形成型皮膚保護剤を塗布することでリドカインテープによる皮膚症状が軽減できるのではないかと考えた。今回我々は患者が簡便に使用できる皮膚保護剤とリドカインテープの併用が有効か調査した。また、浜らは「痛みは人によって感じる度合いが異なり、個人差が大きかったし、同じ痛みでも環境の変化や精神的な変化により大きく変わったりする。」¹⁾と述べており、穿刺痛の変化と精神的な変化も知りたいと考え調査したので報告する。

〔目的〕

皮膚症状がありリドカインテープを使用できない患者が皮膚保護剤を使用することで皮膚症状が出現することなくリドカインテープの使用が可能になる。

〔研究方法〕

1) 研究期間

2005年6月30日から2005年8月30日

2) 調査対象

当院でシャント穿刺をしている血液透析患者
105名中 リドカインテープにより皮膚症状の
見られた患者23名

3) 研究内容

1. 皮膚保護剤とリドカインテープを併用し、穿刺直前の皮膚の状態を、発赤、掻痒感、色素沈着、ピリピリ感、熱感、皮剥けの項目で、観察する。
2. リドカインテープ未使用時とリドカインテープのみ使用時、リドカインテープと皮膚保護剤併用時の痛みの程度を穿刺直後にフェイススケールを使い聴取した。
3. 気分調査票を用いてアンケート調査を実施。緊張と興奮、爽快感、疲労感、抑うつ感、不安感の5つの因子で各8項目、因子は明らかこそせず、皮膚保護剤とリドカインテープ併用前と、10回併用後にアンケートをとった。

〔結果〕

皮膚保護剤使用にて皮膚症状が認められなかった人は23名中14名、皮膚症状を認めた人は23名中9名。(図1) そのうち発赤が認められたのは9名中7名であったが、7名とも30分後には発赤は軽快した。その他に掻痒感は9名中4名、色素沈着は9名中2名に認められた。ピリピリ感、熱感、皮剥けの皮膚症状は認められなかった。

黒岩慎吾 長野赤十字病院透析センター

〒380-8582 長野市諾里5丁目22番1号

図1 皮膚保護剤使用時の皮膚症状の有無

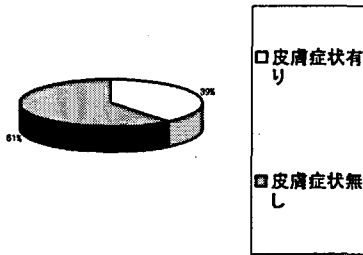
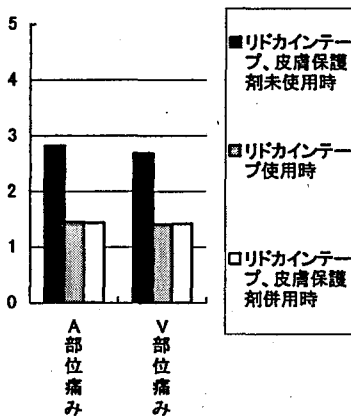


図2は痛みの程度の平均値を示している。最高を5点とし、リドカインテープ未使用時はA部位2.81点、V部位2.68点。リドカインテープのみ使用時はA部位1.45点、V部位1.41点。皮膚保護剤とリドカインテープ併用時はA側1.43点、V側1.42点であった。リドカインテープ未使用時に比べ皮膚保護剤とリドカインテープの併用時の痛みの程度は有意に減少した。

図2 穿刺痛の程度

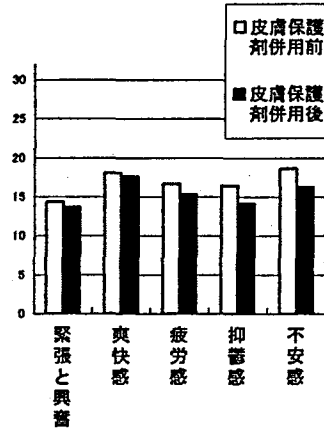


気分調査票では皮膚保護剤併用前では緊張と興奮14.3点、爽快感13.6点、疲労感18.0点、抑うつ感16.4点、不安感18.6点。併用後では緊張と興奮13.7点、爽快感17.6点、疲労感15.3点、抑うつ感14.2点、不安感16.

3点であった。皮膚保護剤併用前に比べ併用後に抑うつ感、不安感の因子がやや低下している。

男性において不安の因子が有意に減少したが、患者全体では有意差を認めた因子はなかった。

図3 気分調査票の結果



(考察)

テープかぶれに効果があった皮膚保護剤がリドカインテープによる皮膚症状にも効果があるのではないかと考えた。調査の結果、リドカインテープと皮膚保護剤の併用により皮膚症状の軽減がみられた。これは皮膚保護剤が皮膜を形成し、リドカインテープの粘着剤による皮膚への影響を緩和することができたのではないかと考えられる。

フェイススケールの結果から、皮膚保護剤とリドカインテープ併用時とリドカインテープのみ使用時では穿刺痛の程度に差はみられなかった。皮膚保護剤のもつ透過性により、リドカインテープの効果の妨げにならなかったと考えられ、穿刺痛の緩和にも有効であったと考えられる。

気分調査では穿刺痛の緩和と気分状態の明確な関係性はみられなかった。男性において不安の因子で有意差がみられたのは女性の対象者が少なかった為と考えられる。また、他の因子において有意差がみられなかったのは透析患者は日常様々な不安やストレスを抱えていると推測され、穿刺痛が緩和された

気持ちにさせないというだけで、実はかなり痛みは和らぐもの²⁾と述べている。信頼関係をより良く保ち、患者の不安やストレスの軽減に務めることが、穿刺痛の緩和のひとつの要素につながっていくことを認識して患者と接していく必要があると考える。

【結語】

リドカインテープと皮膚保護剤の併用は皮膚症状の軽減、穿刺痛の緩和に有効であった。しかし、患者の中には面倒だという声が聞かれ、実際には3名の方が継続している現状である。

今後患者の要望に沿った皮膚保護剤、局所麻酔剤の使用法を検討していくとともに、患者の不安、ストレスを軽減できるような看護を提供していきたい。

引用・参考文献

- 1) 浜順子・岡田真知子：慢性の痛みをもつ患者の看護過程ガイドライン，月刊ナーシング，8(9)，p. 38, 1988.
- 2) 佐中孜：透析医療における痛み概論，透析ケア，通巻第26号，p. 26, 1997.
- 3) 坂野雄二他：感情・気分 気分調査票，堀洋道他編：心理測定尺度集I. 東京，サイエンス社，2004，249-254.
- 4) 白石純子：導入期の患者の精神心理：透析ケア Vol. 3 No. 5，メディカ出版，46-48.
- 5) 春木繁一：アンケートから垣間見る長期透析患者の精神、心理：透析ケア Vol. 9 No. 11，メディカ出版，12-19.